# はじめに

本講義は地方国公立大や日東駒専・産近甲龍といった中堅私立大合格を目標とする講座です。

現代文といえば

「勉強しても意味がない」
「コスパが悪い」

と一般には考えられています。しかし、論理的構造分析を身につけ、論理のルールに従って解答をしていけば、全ての問題に根拠をもって解答することができるのです。

「現代文は勉強しても意味がない」
という常識を覆すのがこの講義です。

本講義を終えたとき
「周りがほとんどまともな対策をしない現代文こそ、差をつけることができる科目だ」
と思えるように講義をしていきます。

この講義で、みなさんの頭脳に革命を起こしてみせます。

## 本講義の現代文の考え方

本講義は文章を従来の「意味論」だけでなく「統語論」の側面からも解説していきます。もちろん文章には「意味」があります。しかし、「意味」というのは読者の側に生成される主観的なものでもあります。ですから、「意味」ばかりを追求していくと、「読者によって意味が異なる」ということが起こり得るのです。

一方、大学入試の問題はたとえ最高峰の記述問題であろうとも、「読者によって解答が異なる」ということはありません。そこには客観的に正しい答えがあって、その答えや答えに至るプロセスがいかなるものかによって点数がつけられます。であれば、言語の客観性である「統語論」的側面を無視することはできません。言語の「統語論」的側面とは以下の三つです。

**①　文法**
**②　構文**
**③　論理**

たとえば、①文法ですが、筆者によって副助詞の「も」の使い方が異なるということはあり得ません。また、読者によって副助詞の「も」の機能が異なって受け取られるということもあり得ません。副助詞の「も」は、たとえどんな筆者であろうと、どんな読者であろうと、客観的に機能します。

また、②構文ですが、本講義では「主語―述語」の関係や、「修飾語―被修飾語」の関係や、「接続語―被接続語」の関係からなる文構造のことを構文と呼びます。この構文に関しても、文法と同様のことが言えます。読者によって「文の主語―述語が異なる」ということはありません。構文もまた、どんな筆者であろうと、どんな読者であろうと、客観的に機能します。

最後に、③論理ですが、ここが本講義の最大の特徴です。①文法や②構文は「日本語」という言葉のルールです。それに対し、③論理は「日本語」だけにとどまりません。あらゆる言語に及ぶ最も普遍的なルールといってよいでしょう。数式が世界

共通の言葉であるように、論理もまた世界共通の普遍的ルールなのです。本講義では論理を以下の「４つの言葉のルール」と「４つの言葉の使い方」とします。

**・「でない」という否定**
**・「かつ」という連言**
**・「または」という選言**
**・「ならば」という条件法**

以上の４つの言葉のルールを駆使して筆者は文を書きます。ですから、読者も４つの言葉のルールを理解して読まなければなりません。本講義ではその「ルール」と「方法」を伝えます。

さあ、最先端の現代文講義の開講です。

柳生　好之

## 受講の際の注意点　効果的な講義の利用法

最高の講義を用意しましたが、ただ映像を見るだけでは力はつきません。効果的に学習するためにも、この利用法を実践してください。

## Ⅰ　予習について

**まず一度本文を通読し、「要旨把握」と「意味段落分け」をしてください。そして次に、「設問」や「傍線部」を確認してから、「解答の根拠」を本文中に求めてください。最後に、本文中の解答の根拠をもとにして設問に解答してください。**

本講義では「制限時間あり」で60％を目標として解答してください。その際、「解答の根拠とした文」に線を引いておいてください。

この作業を予習の段階でしておくことで、講義に集中できる仕組みになっています。

**予習ポイント**　**問題を解く。解答の根拠をメモしておく。**

# Ⅱ　講義について

**映像授業を受講している間は、メモを取らないでください。**

ただ見たことをノートに写す、あるいは聞いたことをその場でメモに書くというのは、「頭の中には何も残っていない」状態になりやすいのです。ですから、各チャプター後に講義のポイントを思い出しながらメモを取ってください。あくまでも「一度頭の中に置いた」上で、「頭の中から取り出す」という作業を怠らないでください。この作業が「文章を読み、解答を書く」という現代文の解答プロセスのトレーニングになるのです。**ただし、本文に線を引くのは構いません。**

**講義ポイント**

**講義中はメモを取らない。説明や図は講義後ノートに書く。**

## Ⅲ　復習について

よく「現代文は復習しなくてもよい」という意見を聞きます。しかし、そもそも「復習しなくてよい」なら、復習して覚えるべきポイントがない「授業」も受ける必要がないでしょう。受験生の貴重な時間をいただくわけですから、本講義は「復習ポイント」も用意してあります。

「復習ポイント」をしっかり覚えてください。これは現代文を分析する上で必要になる考え方です。

| 復習ポイント | 復習ポイントを覚える。解答を書き直す。 |
|---|---|

# 国公立大・私立大 現代文対策講座　目次

第一講　「差異」と「類似」を読む……p.8
第二講　「論証」を読む……p.26
第三講　「心情」を読む……p.44
第四講　傍線部内容説明問題解法……p.70
第五講　傍線部理由説明問題解法……p.86
第六講　空所補充問題解法……p.108
第七講　心情把握問題解法……p.122
第八講　内容真偽問題解法……p.136

巻末付録
読解法一覧……p.154
傍線部内容説明問題解法……p.174
傍線部理由説明問題解法……p.177
傍線部心情把握問題解法……p.185
空所補充問題解法……p.189
脱文補充問題解法……p.190
文整序問題解法……p.191
内容真偽問題解法……p.192

# 第一講　「差異」と「類似」を読む　30分

次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

大学の知が「役に立つ」のは、必ずしも国家や産業に対してだけとは限りません。神に対して役に立つこと、人に対して役に立つこと、そして地球社会の未来に対して役に立つこと――。大学の知が向けられるべき宛先にはいくつものレベルの違いがあり、その時々の政権や国家権力、近代的市民社会といったX<u>リンカイ</u>を超えています。

そしてこの多層性は、時間的なスパンの違いも含んでいます。文系の知にとって、三年、五年ですぐに役に立つことは難しいかもしれません。しかし、三〇年、五〇年の中長期的スパンでならば、工学系よりも人文社会系の知のほうが役に立つ可能性が大です。ですから、「人文社会系の知は役に立たないけれども大切」という議論ではなく、「人文社会系は長期的にとても役に立つから価値がある」という議論が必要なのです。

そのためには、「役に立つ」とはどういうことかを深く考えなければなりません。概していえば、「役に立つ」ことには二つの次元があります。

一つ目は、［　A　］［(a)］型です。これは、どちらかというと理系的な知で、文系は苦手です。たとえば、東京と大阪を行き来するために、どのような技術を組み合わせれば最も速く行けるのかを考え、開発されたのが新幹線でした。また最近では、情報工学で、より効率的なビッグデータの処理や言語検索のシステムが開発されています。いずれも目的は所与（Y）で、その目的の達成に「役に立つ」成果を挙げます。文系の知にこうした目に見える成果の達成は難しいでしょう。

しかし、「役に立つ」ことには、実はもう一つの次元があります。たとえば本人はどうしていいかわからないでいるのだけれども、友人や教師の言ってくれた一言によってインスピレーションが生まれ、厄介だと思っていた問題が一挙に解決に向かうようなときがあります。この場合、何が目的か最初はわかっていないのですが、その友人や教師の一言が、向かうべき方向、いわば目的や価値の軸を発見させてくれるのです。このようにして、［　B　］ことを［(b)］型と呼んでおきたいと思います。これは、役に立つと社会が考える価値軸そのものを再考したり、新たに創造したりする実践です。文系が「役に立つ」のは、多くの場合、この後者の意味においてです。

古典的な議論では、ドイツの社会学者マックス・ウェーバーによる「目

的合理的行為」と「価値合理的行為」という区分があります。そこでは、合理性には「目的合理性」と「価値合理性」の二つがある、と言われました。「目的合理性」とは、ある目的に対して最も合理的な手段連鎖が組み立てられていくことであるのに対し、「価値合理性」は、何らかの目的に対してというよりも、それ自体で価値を持つような活動です。

　ウェーバーが「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」で論じたことは、プロテスタンティズムの倫理は価値合理的行為であったのだが、その行為の連鎖が結果的にきわめて目的合理的なシステムである資本主義を生み出し、やがてその価値合理性が失われた後も自己転回を続けたという洞察です。そこで強調されたのは、C目的合理性が自己完結したシステムは、いつか価値の内実を失って化石化していくのだが、目的合理的な行為自体がその状態を内側から変えていくことはできない、という暗澹（あんたん）たる予言でした。ウェーバーは、そのようにZクウソになったシステムを突破するのに、価値合理性やカリスマといったシステムへの別の介入の回路を考えようとしていたわけです。

　このウェーバーの今なお見事な古典的洞察に示されるように、(a)型の有用性、「役に立つこと」は、与えられた目的や価値がすでに確立されていて、その達成手段を考えるには有効ですが、そのシステムを内側から

変えていくことができません。したがって目的や価値軸そのものが変化したとき、一挙に役に立たなくなります。

つまり、［(a)］型ないしは手段的有用性としての「役に立つ」は、与えられた目的に対してしか役に立つことができません。もし目的や価値の軸そのものが変わってしまったならば、「役に立つ」と思って出した解も、もはや価値がないということになります。そして実際、こうしたことは、長い時間のなかでは必ず起こることなのです。

価値の軸は、決して不変ではありません。数十年単位で歴史を見れば、当然、価値の尺度が変化してきたのがわかります。たとえば、一九六〇年代と現在では、価値軸がすっかり違います。一九六四年の東京オリンピックが催されたころは、より速く、より高く、より強くといった右肩上がりの価値軸が当たり前でしたから、その軸にあった「役に立つ」ことが求められていました。新幹線も首都高速道路も、そのような価値軸からすれば追い求めるべき「未来」でした。超高層ビルから湾岸開発まで、成長期の東京はそうした価値を追い求め続けました。ところが二〇〇〇年代以降、私たちは、もう少し違う価値観を持ち始めています。末長く使えるとか、リサイクルできるとか、ゆっくり、愉快に、時間をかけて役に立つことが見直されています。価値の軸が変わってきたのです。

よく言われるのは、ソニーのウォークマン[注1]とAppleのiPad／iPhone[注2]の違いです。ソニーはなぜAppleになれなかったのかを考えたとき、ソニーは既存の価値の軸を純化していった。つまりウォークマンはステレオの聴くという機能に特化して、それをモバイル化した。その意味では非常に革新的だったのですが、ウォークマンはあくまでもステレオだったわけです。ところがiPad／iPhoneは、パソコン、そして携帯電話という概念自体を変えてしまった。コミュニケーションがどういうものであって、そのなかでどのような技術が必要かという考え方をしているから、テクノロジーの概念そのものを変えてしまった。これが価値の軸が変化しているということです。五年や一〇年では変わらないかもしれませんが、より長いスパンで見れば、必ず価値の軸は転換をしていくわけです。

ソニーに限らず、与えられた価値軸の枠内でウォークマンのような優れた製品を作るのは、日本の、特に工学系の強みでしょう。しかしiPad／iPhoneの例が示すように、価値の転換をするというのは概念の枠組みそのものを変えてしまうことで、与えられたフレームのなかで優れたものを作るのとは別次元の話です。大きな歴史の流れのなかで価値の軸そのものを転換させてしまう力、またそれを大胆に予見する力が弱いのは日本社会の特徴であり、それが、日本が今も「後追い」を余儀なくされる主な原因

だと私は思います。

すべてがそうというわけではありませんが、概して理系の学問は、与えられた目的に対して最も「役に立つ」ものを作る、(a)型の知であることが多いと思います。そして、そのような手段的有用性においては、文系よりも理系が優れていることが多いのも事実です。しかし、もう一つの(b)的に「役に立つ」という点ではどうでしょうか。

(a)型の知は、短期的に答えを出すことを求められます。しかし、(b)的に「役に立つ」ためには、長期的に変化する多元的な価値の尺度を視野に入れる力が必要なのです。ここにおいて文系の知は、短くても二〇年、三〇年、五〇年、場合によっては一〇〇年、一〇〇〇年という、総体的に長い時間的スパンのなかで対象を見極めようとしてきました。これこそが文系の知の最大の特徴だと言えますが、だからこそ、文系の学問には長い時間のなかで(b)的に「役に立つ」ものを生み出す可能性があるのです。

また、多元的な価値の尺度があるなかで、その時その時で最適の価値軸に転換していくためには、それぞれの価値軸に対して距離を保ち、批判していくことが必要です。そうでなければ、一つの価値軸にのめり込み、それが新たなものに変わったときにまったく対応できないということになる

でしょう。たとえば過去の日本が経験したように、「鬼畜米英」となれば一斉に「鬼畜米英」に、「高度成長」と言えば皆が「高度成長」に向かって走っていくというようなことでは、絶対に新しい価値は生まれません。それどころか、D そうやって皆が追求していた目標が時代に合わなくなった際、新たな価値を発見することもできず、どこに向かって舵（かじ）を切ったらいいか、再び皆でわからなくなってしまうのです。

価値の尺度が劇的に変化する現代、前提としていたはずの目的が、一瞬でひっくり返ってしまうことは珍しくありません。そうしたなかで、いかに新たな価値の軸をつくり出していくことができるか。あるいは新しい価値が生まれてきたとき、どう評価していくのか。それを考えるには、［(a)］的な知だけでは駄目です。価値の軸を多元的に捉える視座を持った知でないといけない。そしてこれが、主として文系の知なのだと思います。

なぜならば、新しい価値の軸を生んでいくためには、現存の価値の軸、つまり皆が自明だと思っているものを疑い、反省し、批判を行い、違う価値の軸の可能性を見つける必要があるからです。経済成長や新成長戦略といった自明化している目的と価値を疑い、そういった自明性から飛び出す視点がなければ、新しい創造性は出てきません。ここには文系的な知が絶

対に必要ですから、理系的な知は役に立ち、文系的なそれは役に立たないけれども価値があるという議論は間違っていると、私は思います。主に理系的な知は短く役に立つことが多く、文系的な知はむしろ長く役に立つことが多いのです。

（吉見俊哉「「文系学部廃止」の衝撃」による）

（注1）ウォークマン……日本の企業ソニーが開発した小型のポータブル・オーディオプレーヤー

（注2）iPad／iPhone……アメリカの企業 Apple が開発したタブレット型端末とスマートフォン

**問一**　傍線部X「リンカイ」を漢字で書き表すとき、「リン」の文字と組み合わせて**二字熟語とならないもの**を次の①〜⑤の中から一つ選び、数字で答えよ。

①　降　　②　床　　③　接　　④　君　　⑤　終

**問二**　傍線部Y「所与」と対立的な意味を持つ言葉は、後の語群の中にいくつあるか。次の①〜⑤の中から一つ選び、数字で答えよ。

①　一つ　　②　二つ　　③　三つ　　④　四つ　　⑤　五つ

（語群）　与件　　不明　　既知　　所定　　未詳

**問三**　傍線部Z「クウソ」を漢字で書き表すとき、「ソ」の文字と組み合わせて二字熟語となるものは、後の語群の中にいくつあるか。次の①～⑤の中から一つ選び、数字で答えよ。

①　一つ　②　二つ　③　三つ　④　四つ　⑤　五つ

（語群）朴　遠　密　外　通　隔

**問四** 空欄 A と B に入る語句の組み合わせとしてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、数字で答えよ。

① A―ア　B―ウ
② A―イ　B―エ
③ A―ウ　B―エ
④ A―ウ　B―オ
⑤ A―イ　B―オ

ア 理論を応用して、従来なかった新しいものを創造する
イ もっぱら「役に立つ」ものの創造を目指す
ウ 目的がすでに設定されていて、その目的を実現するために最も優れた方法を見つけていく
エ さまざまな既存の価値の中から最適なものを見つけ出して、時代に適応する
オ 「役に立つ」ための価値や目的自体を創造する

**問五**　空欄 (a) に共通して入る言葉と空欄 (b) に共通して入る言葉との組み合わせとして、もっとも適当なものを次の①〜⑤の中から一つ選び、数字で答えよ。

① (a) 合理　(b) 非合理
② (a) 理性　(b) 感情
③ (a) 理論　(b) 実践
④ (a) 合目的　(b) 無目的
⑤ (a) 目的遂行　(b) 価値創造

**問六**　傍線部C「目的合理性が自己完結したシステムは、いつか価値の内実を失って化石化していくのだが、目的合理的な行為自体がその状態を内側から変えていくことはできない」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、数字で答えよ。

① ある目的を達成するために最も合理的な手段の連鎖が組み立てられていくと、それはそれ自体で価値を持つようになるが、そうなると、その新しい価値が追求するシステムが確立され、それを変えることはできなくなる

② プロテスタンティズムの倫理は価値を追求する行為の連鎖を生み出し、それが結果的に資本主義というきわめて目的合理的なシステムを確立したが、そのシステムは、その後プロテスタンティズムの倫理が衰弱したために止めることができなくなり、自己転回を続けた

③ 目的合理性だけを追求するシステムは、手段として自己完結するようになって他の物を必要としなくなるが、そうするとそれは化石のように硬直して価値を受け付けなくなり、価値によって変えることができなくなる

④ 目的を達成するための合理的な手段の連鎖が組み立てられて、きわめて目的合理的なシステムが出来上がると、そのシステムは自己運動を続けるようになるが、単なる手段の連鎖と化したそのシステム自体には、価値と離れた自己運動を変えることができない

⑤　価値がまだ確立していない状態で目的合理性だけを追求すると、それはきわめて硬直したシステムを生み出すようになり、そうすると、価値が確立されたとしても、そのシステムを内側の価値によって変えることができなくなる

**問七**　傍線部Ｄ「そうやって皆が追求していた目標が時代に合わなくなった際、新たな価値を発見することもできず、どこに向かって舵を切ったらいいか、再び皆でわからなくなってしまうのです」とあるが、その理由としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、数字で答えよ。

①　「鬼畜米英」や「高度成長」という目標はもう時代に合わなくなっているのに、それに気づくことができなくなってしまったから

②　「鬼畜米英」や「高度成長」はそもそも目指すべき目標としては適切ではなかったのに、多元的な価値の尺度を持たなかったために、そのことを最初から認識できなかったから

③　一つの価値軸にのめり込むと、そこから距離を取ったりそれを批判したりすることができないため、他の価値軸を考えられなくなっているから

④　短期的に答えを出すことだけを求めると、物事を長期的に見ることができなくなってしまい、進むべき方向を見失ってしまうから

⑤　価値の尺度が劇的に変化し、前提としていたはずの目的が一瞬でひっくり返ってしまうことがあるのに、それに気づかないことがあるから

**問八**　後のア〜オのうち、本文の論旨に合致するものはいくつあるか。次の①〜⑤の中から一つ選び、数字で答えよ。

①　一つ　②　二つ　③　三つ　④　四つ　⑤　五つ

ア　理系の知は役に立つので価値があり、文系の知は役に立たないが価値はある

イ　理系の知はすべて短期的には役に立つが長期的には役に立たず、他方、文系の知はすべて短期的には役に立たないが長期的には役に立つ

ウ　大学の知は、神や地球の未来などさまざまなものに役に立ちうるし、また数十年、数百年といった長い時間の中で役に立ちうる

エ　日本が今も「後追い」を余儀なくされている状況を脱するには、理系の学問を強化する必要がある

オ　新しい創造性を生み出すには、与えられている目的や価値を疑うことが必要である

問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

# 解答解説

# 第一講 「差異」と「類似」を読む　解答解説

**問一**

③

③隣接　臨海　①降臨　②臨床　④君臨　⑤臨終

**問二**

②

②不明　未詳

**問三**

⑤

⑤空疎　素朴　疎遠　疎密　疎外　疎通　疎隔

**問四**

④

**問五**

⑤

**問六**

③

**問七**

| |
|---|
| ③ |

**問八**

| |
|---|
| ② |